



## 上三宮三島神社の太々神楽

三島神社の御神楽は、太々神楽といわれ、初代権太夫義影が元和七年（一六二一）に京都の吉田ト部家から裁許状を受領するとき、御神楽奉饞の許しを同時に受けてきたものと伝えられている。

その後の経過は明らかでないが、神主の代替りごとに京都に足を運んで、ト部家の許しを得るのが習わしとなっていた。

神楽の舞は十二種類あり、「御神前の舞」から始まり、「左右の舞」

「御幣の舞」「御玉の舞」「御鏡の舞」「御榊の舞」とつづき、「岩戸の舞」

で最高潮に盛り上がりを見せる。そして「巫子の舞」「ぬ針の舞」

「稻荷の舞」「釣漁の舞」へと進み、「剣壺の舞」で結んでいる。

静かな動きの左右の舞、動的な稻荷の舞、それに余興的な釣漁の舞などの変化があり、笛や太鼓に合わせて進む足取りは、奉納神楽としての伝統をよく伝えている。

太々神楽は、毎年九月九日に三島神社の祭礼に合わせて奉納されている。

所在地 上三宮町上三宮字池田 三島神社

指定年月日 昭和五十八年四月七日